

# 琉球大学学術リポジトリ

## 米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係重要事項 月報(2)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-02-04 キーワード (Ja): 新聞報道, 南方連絡事務所, 月報, ジョンソン駐日大使, 施設権返還決議, 国連憲章, 核兵器基地, 平和条約第3条 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43508">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43508</a>

才ノ子（41年11月分）

タイプ指示	発信用	執務用	計
主 信	/	/	2
付			
局			

発送日	昭和41年12月21日
発信	タイプ 校

文書課

公 信 案 (分類)

公 信 番 号	米 北 第 1640 号	公 信 日 付	昭和 41 年 12 月 20 日
大 臣	政 務 次 官	主 管	北米局長
事務次官	事務次官		参 事 官
外務審議官	外務審議官		主任 北米課長
官 房 長	官 房 長	起草者	森山 電話番号 671
<p>清原 龍吉</p> <p>少5段 押一紙以上、外交信使科 との関係で、中絶し、西の方向に下す。</p>			
受信者	在米 武 外 大使		
発信者	三 木 大 臣		
寄送付先	(希望発送日)		
件 名	沖縄関係重要事項月報の送付		
GA-2	外務省	同番号	2624

20 81

米北才 1640号

昭和41年12月20日

在 米 大 使 殿

外 務 大 臣

沖縄関係重要事項月報送付について

沖縄関係問題に因り、在米、在現地に於ける日米の動きは多岐に

わたるが、之れを推察し、毎に半月毎にまとめた、記述内容が漸

進的であること、事務参考資料としての利用(西側面も、又利便のため

も煩雑であること、等、之れを月報として、重要事項に付、より

長期的観望を加えること、が意義とされている。今、因り、各月毎

の月報として送付するのと、現地の新聞報道に基くもの、本省  
の月報と見解を反映するもの、との見解を、

より、下記事項に因り、月報中(昭和41年11月分)を

GA-4

外務省

別添のとおり送付す。

記

1. アンガン 新高着弁務官の着任

2. 在法院関係

3. ジョーンズ 駐日大使発言と教育权分府返還問題

4. 対沖縄援即問題と次期日米協談委員会

5. CID 暴行事件と外人事件対策

付属添付

GA-4

外務省

沖縄問題重要事項月報第 1 号

(昭和 41 年 11 月 1 日 - 30 日)

1. アンガン 新高着弁務官の着任

10 月 28 日 来日した アンガン 中将は、11 月 1 日、佐藤総理

新長官と表敬訪問し、翌 2 日、沖縄に赴任した。

滞京中の アンガン 中将は、前例のない在東京琉球事務所訪問

を行う等、終始平順と微笑で好印象を与えながら、その発言

は、基地の有効維持と住民の福祉向上が政策の二本柱で

あり、勝算については今後の勉強により処理していくの

慎重な態度であった。

同弁務官は 2 日午前、沖縄で、<sup>記</sup>防務官の証言書

受領と宣誓により正式に就任したが、その後の記者会見で

新高着弁務官の任務について ① 琉球における米軍基地の有効

性を維持すること、② 琉球住民の経済発展、社会福祉の

GA-4

外務省

向上に努めることにあると述べ、共通の目的を達成する  
ために米琉の協調していくことを強調し、半日以來初  
めて施政方針の公表を行った。又、施政に当っては前任者  
の基本方針を踏襲し、琉球政府への権限委譲による自治の  
拡大、沖縄の民生向上に有効な日米援助の復入りを約束  
と共に、裁判移送、軍用地の新規接收問題等については  
住民の意見を聞いて解決すると述べている。

以上の発言及び前任者の初印象について、沖縄の与党  
は、問題の解決に「真正面から対決して解決に努力する  
意欲とまじめさが見られると歓迎している一方、野党各派の  
米口の基本政策が変わる限り、高等年務官の交代による沖  
縄統治政策に変更は有り得ないと批評している。

この反響は、アーク高等年務官の着任前、生粋の軍事内  
閣である過去に「米口」の沖縄施政の所謂硬軟備置説  
及び「ソフトな戦争」  
の激化に伴う沖縄民衆の重視等、諸説

から割出された新高等年務官による米口の強硬政策の便法  
が懸念されていたのに対し、着任後の論評は、今後の沖縄  
施政は米口の方針に基づいて、現地における事務執行  
者である年務官の交代に影響されるものではないとの観測  
に転じた。しばらくは静観するとの体制に当たっているよう  
である。

## 2. 立法院内情

去る10月初旬以来、移送裁判=事件の民政府  
裁判所審判、軍用地接收手続の再延長と半例手続  
の解釈判明など、事案の進展が知られているのに対し  
立法院は特別委員会の運用方針に固執する態度の  
意見の対立、沖縄産糖の買上げ価格問題に対する  
本と接渉等、実質的歩進を許していない。

11月4日、民進党及び野党各派の両者は、その部

会合に、立憲院内外における当面の問題である裁判  
移送、軍用地問題、それに最近の米第12軍団の外人事件  
対策等について討議すると共に、これらの問題を討議する  
臨時国会の開催を要求すると共に各党意見の一致を求めた。  
又、翌5日、野党4派（社大党、社会党、~~民~~民党、民  
党新派）は全議員（14名）の連名で議長を通過し、政主席  
に対し、臨時国会招集要求を正式に提出し、米軍人、軍属  
による犯罪対策、軍用地接收阻止、裁判移送、台風災害  
対策、米作農民保護、自治拡大と責任政治の徹底  
の6件を審議案件として挙げた。

これに対し、与党、内政府は上記 ~~臨時国会を~~  
野党側が一連の政治事件の発生が内政主席の責任  
にあると見做し、その政治責任を追求して退陣に追い込む  
無意であるとし、国会招集日の決定に苦しいため、7日  
松岡主席は国会を12月5日に招集する旨、及び

審議案件は野党要求の6件と、内政府内閣人事承認と  
加え、7件とすることを告げた。

他方、民進党の星克政調会長のほか4幹部は  
は、内政府総務による米口の口民指導者計画の招集に  
応じ、11月9日、約1ヶ月の予定で渡米した。

### 3. ジョージ・駐日大使発言と教育権令廃止問題

ジョージ・駐日大使は、11月9日、着任後、初の記者会  
見で、静かな外交が最善の外交であると述べた。中  
内閣について、重要ではあるが、<sup>日米間の</sup>重大(MAJOR)問題ではない  
と述べ、日本と沖縄間の内部のみならず、他の要素が絡んで  
いるので日本への返還問題の<sup>些</sup>限定して考えることは困難  
であり、又、米口<sup>の</sup>沖縄施政の責任から部分的に返還を  
論ずることは難いといふ述べた。

このコメントは教育権令の令廃止の希望が表明されている

其、この質問に対してお答えしたため、本工部紙は勿論  
沖縄でも、教育権の分府返還は国策として見られて  
同会見記事も報じ、~~その~~、これに対し、森通務大臣  
は、ジョンソン大使と早急会談し、分府返還構想に  
~~閣内~~<sup>自分</sup>の意見を述べ、更に推進するよう仰せられた  
旨を發表し、又、沖縄では、これより森構想の支持  
を表明していたと、与党は戸惑いの色を平しながら、話し合  
いによる解決に希望を寄せ、又、野党側は、「この発言は  
従来の野党（別主張）のとり、米国の対沖縄施政が軍事  
優先の基幹方針であり、これの変更はあり得ない」との判断  
に誤りがあることを裏付けてあるとし、同発言を問題視している。  
これを契機として、沖縄問題に関し、新大使の認識  
と米政府の考え、体制などについて、読物としてまとめられ  
琉球新報の記事（別添）は、琉球沖縄問題消息通の受取  
り方として、興味があるのでは、別添する。

教育権分府返還問題に、どのような態度にあるのか、内外の注  
目を集めていた。沖縄教職員会は11月14日、那覇で、各地の理事  
中央委員、政務部、青年部、婦人部、高校部、情宣部、校務部  
の全役員合同会議を開き、教育権返還を積極的に推  
進するの基幹態度を決定し、声明を發表した。  
同声明は、森構想と基地強化の代償と有意図を  
は反対すると、示置しながらも、教育権の返還は沖縄の安全  
復帰路線の一環とし、従来の格差是正策に止まらず、日本の憲法  
教育関係諸法令の適用により、教育に関する財政、施設、師資の  
三枚が沖縄に及び、これを改善とあるべきとの条件を述べた  
の9、その問題に対し、自主的かつ積極的に教育権分府返還を  
推進し、これを土台として、全面復帰に邁進することを決  
意すると述べている。  
沖縄内部総議会の決議（議長は11月16日  
沖縄を訪問、政界、教育界関係者と意見を交換したほか、

17日午後、アソガー高年事務官と教育権内題について懇  
談した。その際、印象として、説得ある半側の壁は  
厚い。決して不可能ではないと語った。

沖縄問題懇談会の第6回会合は11月29日、総理府に  
開かれた。20日の会合には過去4回の会合で要する政府  
関係機関から出た見解や内題を整理調整した教育権  
令府設置の思惟的大綱草案をとりまき、中間報告書「中  
国における教育返還問題」資料を配布され、(12月1日付通信  
半紙中1553号付原参照)同資料中の27項目の問題点を中心  
に、今後大綱の読みと作業に着手するところになった。

又、同懇談会は公的に総理府総務長官の諮問材  
質であることが確認され、外閣改造による総務長官の交代が  
あるとしても、引き続き存続することになり、教育権返還問題に  
関係する関係には充分時間とやり取りがなされ、答申も、本年3月末頃  
までに提出することを確認された。

#### 4. ~~昭和42年度対中関係~~ 対沖縄援助問題と次期 日米協談委員会

昭和42年10月18日の第10回日米協談委員会で半側の  
り提案された、来会計年度対沖縄援助について、おね  
総理府より、103億の援助額が半側から要請である  
のをお知らせ、佐藤総理が沖縄以来の一律化方針に基づき  
日本政府の重要政策であることと指摘し、大蔵省の総額  
承認は本土、沖縄両地ともに承認された。

しかし、福田大蔵大臣は、11月15日、閣議  
後の大蔵省記者クラブとの会見で、103億円の金額は半側  
援助の上廻り、又、沖縄財政の1/3を負担することになれば、  
半側も施政権に対する考え方に変化がある場合があるとい  
う。従って、基本問題を含む沖縄問題について日米の  
十分に話し合い、今後は財政支出を通じ、日本政府も  
沖縄施政に接触をもつ方向が決まらなければ、単純に



この種天下りの提案による財政支出問題に無関係  
の属する部にはりやなと語り、又、プライス法の制約  
を受け半側の今回提案の荷量も知れないと語り、大旨  
報いられた。  
この福田発言は現地で大きく報道され、その反響も  
大きかったが、結局、103億の総枠には大きな影響はあ  
るまいと見られる。「政治的な配慮がある」(松岡主席)、「半側  
が返還に關する具体的日程を定せば、日本政府はさらに援助  
を増額するであろう」(長瀬正佐陸代長)と、更に、野党各派は  
同発言の援助額減額を意味するならば問題であるが、  
沖縄問題に關する日本政府の発言権を増大せしめること  
であれば歓迎するとの態度を示している。  
同発言の骨組として伝えられる大蔵省事務当局の考へ  
は、①百億円台の財政支出が政策的なものであり、最終的には  
政治的判斷を要するものがあるが、②据置きの形になった

半側援助増額金の肩代りとして要請してきた半側提案の内容の  
一面的なものであり、③24億円の巨額の口税支出には、日本側の  
目的考へ方も盛り込まれていないとの趣意であつたに對し、  
総理府は①今回提案は琉球政府の要求を基礎に作られて  
半島の一方的、天下りのものではない、②沖縄に対する援助は  
対外援助ではなく、口税産業に對する財政支出として考へるべき  
であり、③この時点を援助問題を他の沖縄関係問題等  
と結ぶべきことは混乱を招くものであるとツマツミ、結論  
は18日の閣内閣僚懇談会に持ち込まれた。  
18日の閣内閣僚懇談会に於いて外務大臣、大蔵大臣、総務長官  
及び官房長官の四者會議では①諸般の情勢を鑑み、援助  
に關する次期協談委員会は予定通り11月中旬に開かれ、合意  
を行はう、②同協談會において半側に對し、半島の対沖援助の  
増額を強く要請する、③半島援助の増額を前提として、昨政  
府は半側の援助要請に對し、その総枠について同意する、ことに  
提呈

意見の一致を計、公表された。

社会党の岡田宗司氏は18日参議院外務委員会  
福田繁吉氏に対する政府の考え方を質問した。对此、森経相長官  
は、この程度の巨額の支出ともなれば、例えは予算の細目によつて  
も、日米側がテコがつけざる立場にあるのは当然であろうとの意味  
に解釈していると答へた。

又、米日協定委員会でも米側より同時に提議された  
5億4千万円の災害復興対策費の本年度予算からの支出につ  
いて、大蔵省は緊急性に問題があるとして、全額支出を認めない  
傾向になつて来、結局、同対策費のうち、台風災害による農村  
復興資金の需要見込額として要請された1億8千万円を  
一般(恒久)  
であり、台風被害を受けた住宅の~~建築~~建築経費として3億6千  
万円のみが認められ、29日発表された補正予算案に組み入れ  
られた。

以上の経緯より、来年度援助分の総枠は決定

されたものの、計画細目別支出については、経理府、大蔵省の間  
で依り、折衝が続いており、他方、本年度予算からの支出増加分  
の決定が遅れたため、結局、次期協定委員会の開催は  
物理的に不可能となった。(日本側の管見では、日本側対  
策には、経費と共に、計画細目の一覧表を提出すること  
なつてゐる。) 従つて、次期協定委員会は、12月早々の  
内閣改造の一段落し、沖縄関係を含め大蔵省の  
予算編成作業が完了する12月下旬以降に持ち込ま  
れる公算が強くなつたと観測されている。

#### 5. CID 築砲事件と外人事件対策

去る10月30日夜、丁市赤緑地区で発生した半軍人と  
沖縄住民との争いからCID要員の築砲を捉え、沖縄住民側  
4人のうち、2人が重傷を負つた事件が起つたところ、11日に  
入り、この種、半軍人、軍人等関係する所謂外人事件が再び

すると、沖縄政界も問題視し、又、住民が日常の生活に不安を覚えている旨（云々）している。

所謂外人事件と呼ばれている米軍人及米軍人の犯罪は、従来から少なくない。1965年1年で1,003件を数え、本年の1月及び2月の両月で2461件の発生が公表されている。その内訳も殺人、強盗等凶悪事件から器物破壊、交通違反等多岐に亘っている。

外人事件に対する住民側の不安は、件数の上昇のみに原因があるのではない。米政府布令による琉球警察官の逮捕権、捜査権の適用が制限されていることにも一因がある如くである。布令第87号によれば、琉球警察官は米軍人、米軍人の警官の視界内、<sup>（面会室）</sup>人々に被害を与え……等、目撃した限り限り認め、かつ米口官憲の<sup>（居）</sup>命令せぬ時に限り逮捕出来ることになっており、且つ、逮捕した場合は直ちに米側に通報し、身柄を引き渡すことになっている。

過去の事例として新聞の記事によれば、半側に引き渡された米軍人犯罪者は特別の処罰を受け釈放された事例が乏しく、その審理、処罰結果については何ら、事後的な通報を受けていないのが通例となっていると伝えられている。

11月2日、立法院各派文書会に出席し、CID第621件について説明した新垣警察本部長は、この事件についてCIDは結論を出していないようであるが、否とすれば、今後、日本政府と立法院が共同で外人の逮捕権や捜査権について検討する時期が来ると語った旨伝えられている。

32(1)

<上>

本側に多失礼だろと受けとられた。受け取つて判断するのは早すぎた。

外交上で当然の意見



## ジョンソン大使

た。しばらく黙りこくって述べた。

1998, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024, 2025, 2026, 2027, 2028, 2029, 2030, 2031, 2032, 2033, 2034, 2035, 2036, 2037, 2038, 2039, 2040, 2041, 2042, 2043, 2044, 2045, 2046, 2047, 2048, 2049, 2050, 2051, 2052, 2053, 2054, 2055, 2056, 2057, 2058, 2059, 2060, 2061, 2062, 2063, 2064, 2065, 2066, 2067, 2068, 2069, 2070, 2071, 2072, 2073, 2074, 2075, 2076, 2077, 2078, 2079, 2080, 2081, 2082, 2083, 2084, 2085, 2086, 2087, 2088, 2089, 2090, 2091, 2092, 2093, 2094, 2095, 2096, 2097, 2098, 2099, 2100, 2101, 2102, 2103, 2104, 2105, 2106, 2107, 2108, 2109, 2110, 2111, 2112, 2113, 2114, 2115, 2116, 2117, 2118, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123, 2124, 2125, 2126, 2127, 2128, 2129, 2130, 2131, 2132, 2133, 2134, 2135, 2136, 2137, 2138, 2139, 2140, 2141, 2142, 2143, 2144, 2145, 2146, 2147, 2148, 2149, 2150, 2151, 2152, 2153, 2154, 2155, 2156, 2157, 2158, 2159, 2160, 2161, 2162, 2163, 2164, 2165, 2166, 2167, 2168, 2169, 2170, 2171, 2172, 2173, 2174, 2175, 2176, 2177, 2178, 2179, 2180, 2181, 2182, 2183, 2184, 2185, 2186, 2187, 2188, 2189, 2190, 2191, 2192, 2193, 2194, 2195, 2196, 2197, 2198, 2199, 2200, 2201, 2202, 2203, 2204, 2205, 2206, 2207, 2208, 2209, 2210, 2211, 2212, 2213, 2214, 2215, 2216, 2217, 2218, 2219, 2220, 2221, 2222, 2223, 2224, 2225, 2226, 2227, 2228, 2229, 2230, 2231, 2232, 2233, 2234, 2235, 2236, 2237, 2238, 2239, 2240, 2241, 2242, 2243, 2244, 2245, 2246, 2247, 2248, 2249, 2250, 2251, 2252, 2253, 2254, 2255, 2256, 2257, 2258, 2259, 2260, 2261, 2262, 2263, 2264, 2265, 2266, 2267, 2268, 2269, 2270, 2271, 2272, 2273, 2274, 2275, 2276, 2277, 2278, 2279, 2280, 2281, 2282, 2283, 2284, 2285, 2286, 2287, 2288, 2289, 2290, 2291, 2292, 2293, 2294, 2295, 2296, 2297, 2298, 2299, 2300, 2301, 2302, 2303, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 2312, 2313, 2314, 2315, 2316, 2317, 2318, 2319, 2320, 2321, 2322, 2323, 2324, 2325, 2326, 2327, 2328, 2329, 2330, 2331, 2332, 2333, 2334, 2335, 2336, 2337, 2338, 2339, 2340, 2341, 2342, 2343, 2344, 2345, 2346, 2347, 2348, 2349, 2350, 2351, 2352, 2353, 2354, 2355, 2356, 2357, 2358, 2359, 2360, 2361, 2362, 2363, 2364, 2365, 2366, 2367, 2368, 2369, 2370, 2371, 2372, 2373, 2374, 2375, 2376, 2377, 2378, 2379, 2380, 2381, 2382, 2383, 2384, 2385, 2386, 2387, 2388, 2389, 2390, 2391, 2392, 2393, 2394, 2395, 2396, 2397, 2398, 2399, 2400, 2401, 2402, 2403, 2404, 2405, 2406, 2407, 2408, 2409, 2410, 2411, 2412, 2413, 2414, 2415, 2416, 2417, 2418, 2419, 2420, 2421, 2422, 2423, 2424, 2425, 2426, 2427, 2428, 2429, 2430, 2431, 2432, 2433, 2434, 2435, 2436, 2437, 2438, 2439, 2440, 2441, 2442, 2443, 2444, 2445, 2446, 2447, 2448, 2449, 2450, 2451, 2452, 2453, 2454, 2455, 2456, 2457, 2458, 2459, 2460, 2461, 2462, 2463, 2464, 2465, 2466, 2467, 2468, 2469, 2470, 2471, 2472, 2473, 2474, 2475, 2476, 2477, 2478, 2479, 2480, 2481, 2482, 2483, 2484, 2485, 2486, 2487, 2488, 2489, 2490, 2491, 2492, 2493, 2494, 2495, 2496, 2497, 2498, 2499, 2500, 2501, 2502, 2503, 2504, 2505, 2506, 2507, 2508, 2509, 2510, 2511, 2512, 2513, 2514, 2515, 2516, 2517, 2518, 2519, 2520, 2521, 2522, 2523, 2524, 2525, 2526, 2527, 2528, 2529, 2530, 2531, 2532, 2533, 2534, 2535, 2536, 2537, 2538, 2539, 2540, 2541, 2542, 2543, 2544, 2545, 2546, 2547, 2548, 2549, 2550, 2551, 2552, 2553, 2554, 2555, 2556, 2557, 2558, 2559, 2560, 2561, 2562, 2563, 2564, 2565, 2566, 2567, 2568, 2569, 2570, 2571, 2572, 2573, 2574, 2575, 2576, 2577, 2578, 2579, 2580, 2581, 2582, 2583, 2584, 2585, 2586, 2587, 2588, 2589, 2590, 2591, 2592, 2593, 2594, 2595, 2596, 2597, 2598, 2599, 2600, 2601, 2602, 2603, 2604, 2605, 2606, 2607, 2608, 2609, 2610, 2611, 2612, 2613, 2614, 2615, 2616, 2617, 2618, 2619, 2620, 2621, 2622, 2623, 2624, 2625, 2626, 2627, 2628, 2629, 2630, 2631, 2632, 2633, 2634, 2635, 2636, 2637, 2638, 2639, 2640, 2641, 2642, 2643, 2644, 2645, 2646, 2647, 2648, 2649, 2650, 2651, 2652, 2653, 2654, 2655, 2656, 2657, 2658, 2659, 2660, 2661, 2662, 2663, 2664, 2665, 2666, 2667, 2668, 2669, 2670, 2671, 2672, 2673, 2674, 2675, 2676, 2677, 2678, 2679, 26

< 中 >

長官が特に注目したのは大使が「たばこ」の日本協力の道に通

基地確保に行政権独占

行路難

いなどういふところかは大いに  
なるのである。

# その周辺と波紋

<下>

ジョージ・マクドナルドの死に  
米大統領が深い悲しみを表した。その死は日本と米国の関係に波紋を起す。



ジョージ・マクドナルド

## 森長官への圧力が 米は現状維持へ巻き返す

米は現状維持へ巻き返す

森長官は、米大統領の死に深い悲しみを表した。その死は日本と米国の関係に波紋を起す。

森長官は、米大統領の死に深い悲しみを表した。その死は日本と米国の関係に波紋を起す。

森長官は、米大統領の死に深い悲しみを表した。その死は日本と米国の関係に波紋を起す。

森長官は、米大統領の死に深い悲しみを表した。その死は日本と米国の関係に波紋を起す。

森長官は、米大統領の死に深い悲しみを表した。その死は日本と米国の関係に波紋を起す。

森長官は、米大統領の死に深い悲しみを表した。その死は日本と米国の関係に波紋を起す。

森長官は、米大統領の死に深い悲しみを表した。その死は日本と米国の関係に波紋を起す。

森長官は、米大統領の死に深い悲しみを表した。その死は日本と米国の関係に波紋を起す。

森長官は、米大統領の死に深い悲しみを表した。その死は日本と米国の関係に波紋を起す。

森長官は、米大統領の死に深い悲しみを表した。その死は日本と米国の関係に波紋を起す。

森長官は、米大統領の死に深い悲しみを表した。その死は日本と米国の関係に波紋を起す。

森長官は、米大統領の死に深い悲しみを表した。その死は日本と米国の関係に波紋を起す。

森長官は、米大統領の死に深い悲しみを表した。その死は日本と米国の関係に波紋を起す。